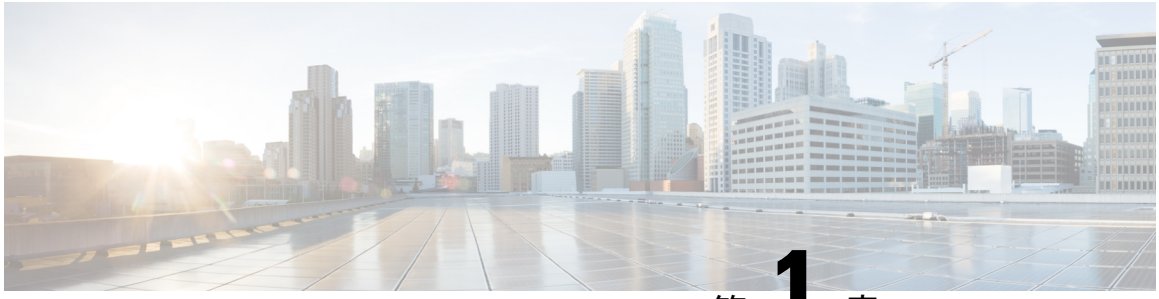
Cisco vAnalytics

初版：2019 年 7 月 19 日

最終更新：2020 年 5 月 5 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（ **www.cisco.com/jp/go/safety_warning/** ）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。



第 1 章

最初にお読みください

参考資料

- 『Cisco SD-WAN Controller Compatibility Matrix and Server Recommendations』[英語]
- Cisco SD-WAN デバイスの互換性 [英語]

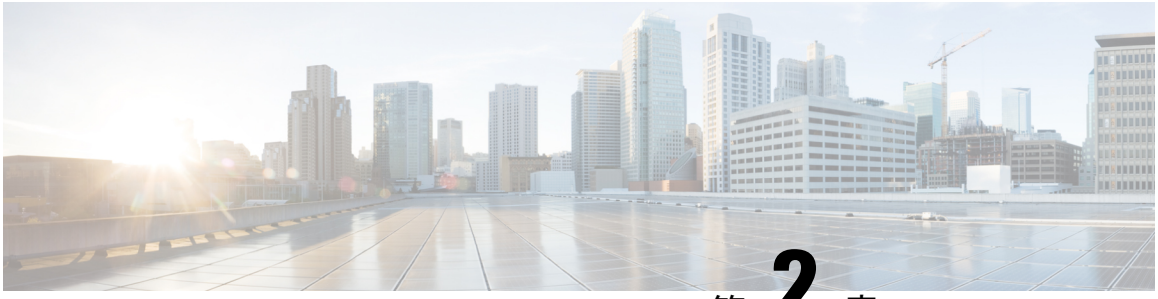
ユーザーマニュアル

通信、サービス、およびその他の情報

- Cisco Profile Manager で、シスコの E メールニュースレターおよびその他の情報にサインアップしてください。
- ネットワーク運用の信頼性を高めるための最新のテクニカルサービス、アドバンストサービス、リモートサービスについては、シスコサービスにアクセスしてください。
- 安全かつ検証されたエンタープライズクラスのアプリ、製品、ソリューション、サービスをお求めの場合は、CiscoDevnet にアクセスしてください。
- Cisco Press 出版社による一般的なネットワーク、トレーニング、認定関連の出版物を入手するには、Cisco Press にアクセスしてください。
- 特定の製品または製品ファミリの保証情報を探すには、Cisco Warranty Finder にアクセスしてください。
- リリースで未解決および解決済みのバグをご覧になる場合は、Cisco Bug Search Toolにアクセスしてください。
- サービス リクエストを送信するには、シスコ サポートにアクセスしてください。

マニュアルに関するフィードバック

シスコのテクニカルドキュメントに関するフィードバックを提供するには、それぞれのオンラインドキュメントの右側のペインにあるフィードバックフォームを使用してください。



第 2 章

Cisco vAnalytics

表 *1*：機能の履歴

リリース	新機能
2023 年 3 月	ThousandEyes WAN Insights を利用した Path Recommendations の機能強化。詳細については、予測ネットワーク （28 ページ）を参照してください。

リリース	新機能
2022 年 12 月	• [Application 360] ページの [Path Analytics] タブを使用して、Webex のパステレメトリデータを表示できます。パステレメトリデータには、経時的なベストパススコア、各パスについて計算された Cisco SD-WAN スコア、パスについて Webex が受信したフィードバック、および遅延データが含まれます。 M365 ファミリのアプリケーションのパステレメトリデータ（[Application 360] ページの [Path Analytics] タブの下に表示）は、現在、南北アメリカ（西部と東部）、ヨーロッパ、および APAC リージョンの Cisco vAnalytics 展開で利用できます。 • Cisco vManage メニュー（Cisco vManage リリース 20.9.2 以降）から Cisco vAnalytics にアクセスします。 • Sankey チャートには、単一サイトのさまざまなトンネル間のアプリケーションフローに関する詳細情報が表示されます。詳細については、「**Sankey チャート**」の項を参照してください。 • トンネルと DIA の両方のさまざまなネットワークパス上のアプリケーションフローを表示します（SaaS 対応アプリケーションの Cloud OnRamp の場合）。回線パスの詳細については、[Application 360] セクションの [App Metrics] を参照してください。 • アンダーレイパス情報と、損失や遅延などのホップメトリックを表示します。Cisco vAnalytics でアンダーレイパス情報を表示するには、Cisco vManage（Cisco vManage リリース 20.10.1 以降）で Underlay Measurement and Tracing Services（UMTS）機能を有効にする必要があります。アンダーレイパスの表示の詳細については、[Application 360] セクションの [App Flow] を参照してください。

リリース	新機能
2022 年 8 月	• ThousandEyes WAN Insights を利用した Path Recommendations は、アプリケーションが使用している現在のネットワークパスの品質と、推奨される代替パスの品質に関するプロアクティブなインサイトを提供します。Path Recommendations 機能は、アプリケーション体験向上のために Cisco SD-WAN ポリシーを変更できるように、十分な情報に基づいた決定を行うのに役立ちます。 • [Application 360] ページの新しい [Path Analytics] タブを使用して、Microsoft 365（M365）ファミリのアプリケーションのパステレメトリデータを表示できます。パステレメトリデータには、経時的なベストパススコア、各パスについて計算された Cisco SD-WAN スコア、パスについて Microsoft が受信したフィードバック、および遅延データが含まれます。 • PDF 形式に加えて、オフラインレビュー用に CSV 形式で定期的なレポートを生成する機能。 • オーバーレイのデータ処理を非アクティブ化および再アクティブ化するオプション。

リリース	新機能
2022 年 4 月	• 非常に直感的なグラフィカル インターフェイスを刷新。 • サイト、アプリケーション、および回線の全体的な正常性と、過去の期間からの変化を示す新しいステータスバー。 • アプリケーション、サイト、回線の新しいサマリーウィジェット、およびメインダッシュボードの上位ユーザーにより、問題の領域にすばやく注意を向けることができます。 • 問題の領域についてより多くのインサイトを得るために、個々のアプリケーションおよびサイト画面にドリルダウンできる新しいアプリケーションサマリーおよびサイト サマリー ダッシュボード。 • 測定された QoE スコア、使用率、損失、遅延の増減率が大きい上位のアプリケーショントレンドの可視化。 • アプリケーションクラスごとにグループ化されたアプリケーションの数と正常性に関する集約ビュー。 • トンネルと DIA トラフィックの両方をカバーする使用統計（Cloud OnRamp 対応アプリケーションの場合）。 • オフラインレビュー用に PDF 形式で定期的なレポートを生成する機能。 • 最大 12 週間の分析表示期間の拡張と、最大 1 週間のカスタム日付範囲を選択するオプション。

概要

Cisco vAnalytics は、Cisco SD-WAN 向けのクラウドベースの分析サービスであり、アプリケーションとネットワークのパフォーマンスに関する包括的なインサイトを提供します。分析サービスは、Cisco DNA Advantage および Cisco DNA Premier ソフトウェア サブスクリプションで利用できます。Cisco vAnalytics は、トラフィックフローに関するメタデータを収集してクラウドストレージに保存し、収集したデータに基づいて分析を生成します。

Cisco vAnalytics サービスの主な利点は次のとおりです。

- ネットワークの可視性：損失、遅延、ジッター、可用性などの主要なネットワーク評価指標を可視化します。
- アプリケーション体験：データセンターおよびクラウドに展開されたアプリケーションの Quality of Experience（QoE）を評価します。
- 運用上のインサイト：過去のベンチマークを確立し、トレンドを特定し、アプリケーション体験を基礎となるネットワークの動作と関連付けます。
- Path Recommendations：アプリケーションが使用している現在のネットワークパスの品質と、アプリケーション体験の向上のために推奨される代替パスの品質に関するインサイトを取得します。
- 迅速な問題解決：根本原因を迅速に隔離して問題の平均特定時間（MTTI）を短縮できます。
- アプリケーションフロー：さまざまなネットワークパス上のアプリケーショントラフィック フローに関するインサイトを取得します。
- Top Talkers：ネットワーク帯域幅の上位の消費者を特定します。
- レポート：CIO/CTO/COO およびネットワークチームによるオフラインレビュー用の分析レポートを生成します。

前提条件

Cisco vAnalytics を使用するには、Cisco vManage で次のオプションを設定する必要があります。

- オーバーレイを Cisco vAnalytics にオンボードする必要があります。オーバーレイがオンボードされない場合は、Cisco Technical Assistance Center（TAC）でケースを開いてください。
- app-visibility を設定します。「Configure Global Application Visibility」を参照してください。
- Network Time Protocol（NTP）サーバーを設定します。Cisco SD-WAN ファブリック内のすべてのコントローラとデバイスで時刻が同期されるように NTP を設定する必要があります。「Configure NTP using Cisco vManage」を参照してください。

機能制限

- ダイレクトインターネットアクセス（DIA）出口を通過するアプリケーションの統計は、それらのアプリケーションに対して Cloud onRamp for SaaS が有効になっている場合にのみ表示されます。
- DIA 出口を通過するカスタムアプリケーションの統計を表示するには、カスタムアプリケーションに対して Cloud onRamp for SaaS を有効にします。Cloud onRamp for SaaS のアプリケーションリストの名前は、カスタムアプリケーション名と同じである必要があります。
- Cisco vAnalytics では、出力トラフィックのみ考慮されるため、Cisco vManage によって報告されるアプリケーションの使用状況の統計と、Cisco vAnalytics によって報告される統計との間に差異がある場合があります。
- Cisco vAnalytics では、オーバーレイ上のアプリケーショントラフィックによってアクティブに使用されたサイトと回線についてのみインサイトが提供されます。未使用のサイトおよび回線については、インサイトは提供されません。
- Cisco vAnalytics では、Cisco SD-WAN トンネルを通過するトラフィックまたは DIA パスを経由するトラフィック（CoR SaaS が有効になっている場合）についてのみインサイトが提供されます。非 Cisco SD-WAN トンネル（SIG トンネル）は、Cisco vAnalytics ではサポートされていません。
- Path Recommendations 機能の可用性は限られており、南北アメリカでプライベートプレビューにサインアップしたユーザーが利用できます。詳細については、アカウント担当者にお問い合わせください。

Cisco vAnalytics のオンボーディング

オーバーレイ用に Cisco vAnalytics を初めてオンボードするには、シスコサポート（https://mycase.cloudapps.cisco.com/case）にアクセスしてケースを開きます。マルチテナント展開では、各テナントを個別に Cisco vAnalytics にオンボードする必要があります。オーバーレイが Cisco vAnalytics にオンボードされたら、以下の該当するセクションの説明に従って、

vManage 構成でデータ収集を有効にします。詳細については、Cisco vAnalytics 用オーバーレイの新しいオンボーディングのリクエスト （33 ページ）の項を参照してください。

Cisco vAnalytics へのアクセス

Cisco vManage リリース 20.9.2 以降では、Cisco vManage メニューを使用して Cisco vAnalytics にアクセスします。

Cisco vManage メニューで [Analytics] を選択します。Cisco vAnalytics には、Cisco Analytics を表示するための次のオプションがあります。

- [Overview]：サイトとアプリケーションについてネットワーク全体の概要が表示されます。
- [Sites]：ネットワーク全体のサイトの可用性と使用状況が表示されます。
- [Applications]：すべてのサイトおよび単一サイトのオーバーレイ全体における、さまざまなアプリケーションの実行方法が表示されます。

Cisco vAnalytics のロケーションに基づいて、次のいずれかの URL を使用して Cisco vAnalytics にアクセスすることもできます。

- 南北アメリカ（西部）：https://us01.analytics.sdwan.cisco.com/
- 南北アメリカ（東部）：https://us02.analytics.sdwan.cisco.com/
- 欧州： https://eu01.analytics.sdwan.cisco.com/
- オーストラリア：https://au01.analytics.sdwan.cisco.com

ポータルには、次のカテゴリの分析が表示されます。

- [Overview Dashboard]：Cisco vAnalytics にログインすると、[Overview Dashboard] が表示されます。サイトとアプリケーションのネットワーク全体の概要を確認できます。
- [Application Dashboard]：すべてのサイトおよび単一サイトのオーバーレイ全体における、さまざまなアプリケーションの実行方法が表示されます。
- [Site Dashboard]：ネットワーク全体のサイトの可用性と使用状況が表示されます。
- [Reports]：エグゼクティブサマリーと詳細レポートを定期的にスケジュールするためのメニューオプション。

認証および承認

Cisco vAnalytics ユーザーは、次のいずれかの方法または ID を使用して認証できます。

- Cisco CCO ID：Cisco Software Central へのログインに使用する ID
- 組織の ID：組織の ID プロバイダー（IdP）によって定義および認証された ID

（注） 組織の IdP は、Cisco vAnalytics と相互運用するために SAML 2.0 または OIDC プロトコルをサポートしている必要があります

- 既存の Okta ID：シスコが割り当てた Okta ID

（注） シスコが割り当てた Okta ID を使用したログインのサポートは廃止されていますが、場合によってはまだ使用されている可能性があります。そのようなユーザーには、できるだけ早く、CCO ID または組織の ID を使用したログインに移行することを推奨します。

Cisco CCO ID による認証

Cisco Software Central を使用して、ユーザーアクセスおよび操作権限を管理できます。各オーバーレイは、バーチャルアカウントに関連付けられています。ユーザーが特定のオーバーレイの Cisco vAnalytics にアクセスできるようにするには、次のいずれかのキャパシティでそのユーザーをバーチャルアカウントに追加します。

- バーチャルアカウント管理者：ユーザーは、オーバーレイのすべての Cisco vAnalytics 画面にアクセスでき、オーバーレイのユーザー認証に使用する IdP も設定できます。
- バーチャル アカウント ユーザー：ユーザーは、オーバーレイのすべての Cisco vAnalytics 画面にアクセスできます。

また、ユーザーをスマートアカウントに追加できます。追加することで、ユーザーは、スマートアカウントに属するすべてのバーチャルアカウントの Cisco vAnalytics にアクセスできます。スマートアカウントレベルでユーザーを追加するこのオプションは、マネージド サービス プロバイダー（MSP）および複数のオーバーレイを管理する企業にとって特に便利です。次のいずれかのキャパシティでユーザーをスマートアカウントに追加できます。

- スマートアカウント管理者：ユーザーは、すべてのオーバーレイのすべての Cisco vAnalytics 画面にアクセスでき、[Reports] タブを表示して、分析用のレポートも生成できます。このユーザーは、すべてのオーバーレイに使用される IdP を設定したり、特定のオーバーレイに組織 IdP を使用するように設定したりできます。

- スマートアカウントユーザー：ユーザーは、オーバーレイのすべての Cisco vAnalytics 画面にアクセスできます。

（注） スマートアカウント承認者には、スマートアカウントユーザーと同じ権限があります。

組織 ID による認証

組織の IdP によって認証されたユーザーは、Cisco vAnalytics で組織 IdP を定義するときに、割り当てられたデフォルトのロールに基づいてオーバーレイと操作へのアクセスが許可されます。または、組織 IdP の `authzCiscovAnalytics` 属性を使用して、ユーザーロールを更新できます。

次の構文を使用して、`authzCiscovAnalytics` 属性のデフォルトのロールまたは値を指定します。

```
<syntax-version>;<overlay-1>:<role1>[,<role2>][;<overlay-2>:<role1>[,<role2>]]...
```

現在、1つのバージョンの構文だけがサポートされており、構文バージョンを `v1` として指定する必要があります。

オーバーレイ名とオーバーレイのユーザー権限を次の形式で指定できます。

`<overlay-1>:<role1>[,<role2>]`。

- すべてのオーバーレイに対して同じ権限をユーザーに割り当てるには、オーバーレイ名を `*` として指定します。さらに、一連のオーバーレイで名前の一部が共有される場合、名前の共有部分とワイルドカード文字 `*` の組み合わせを使用して一連のオーバーレイを指定できます。

  単一のオーバーレイ用に IdP を設定している場合は、オーバーレイ名を `*` として指定します。

Cisco スマートアカウントまたはバーチャルアカウントの管理者は、最初に Cisco CCO ID を使用して Cisco vAnalytics サービスにログインする必要があります。管理者は、ログイン後、アクセス権のあるスマートアカウントまたはバーチャルアカウントのリストを表示でき、その後、ユーザーによる組織 ID を介した後続のアクセスのために、Cisco vAnalytics に対して組織 IdP を定義できます。

管理者が複数のバーチャルアカウント、スマートアカウント、またはその両方に属している場合は、[Smart Accounts] 画面が表示されます。[Smart Accounts] 画面には、管理者が登録しているスマートアカウントとバーチャルアカウントが一覧表示されます。各バーチャルアカウントは、オーバーレイネットワークを表します。

管理者が1つのバーチャルアカウントとスマートアカウントのみに属していて、1つのオーバーレイのみにアクセスできる場合は、[Overview Dashboard] ページが表示されます。[Overview Dashboard] から、[View all overlays] をクリックすると、[Smart Accounts] 画面にアクセスできます。

Cisco vAnalytics がオンボードされているオーバーレイの場合、[vAnalytics Status] の下にあるエントリは [Active] と表示されます。 Cisco vAnalytics がオンボードされていない場合、エントリは [New] と表示されます。Cisco vAnalytics をオーバーレイに使用できる場合、オーバーレイまたはバーチャルアカウント名をクリックして、オーバーレイの [Dashboard] を起動できます。

（注） オーバーレイの [vAnalytics Status] の表示が [New] の場合でも、Cisco vAnalytics がオンボードされていることがわかっている場合は、正しい Cisco vAnalytics URL を使用してログインしたことを確認してください。Cisco vAnalytics へのアクセス （9ページ）を参照し、Cisco vAnalytics のロケーションに基づいて、いずれかの URL を使用します。

オーバーレイのデータ処理を一時停止するには、オーバーレイ名の隣にある […] をクリックし、[Deactivate] を選択します。データ処理が一時停止されると、[vAnalytics Status] は [InActive (Paused)] になります。データ処理を再開するには、[Activate] を選択します。

[IDP Server] の下にあるエントリは、組織の IdP がオーバーレイで使用されるように設定されているか、されていない（[Not Defined]）かを示します。

Cisco vAnalytics がアクティブ化されているオーバーレイの IdP を設定するには、[Actions] の下にある [...] をクリックし、[Define IDP] をクリックします。IdP の定義の詳細については、「オーバーレイの組織 IdP の定義」を参照してください。

オーバーレイの組織 IdP の定義

スマートアカウントの管理者は、組織の IdP を設定して、すべてまたは一部のオーバーレイに対する Cisco vAnalytics ユーザーの認証に使用できます。バーチャルアカウントまたはオーバーレイの管理者は、組織の IdP を設定して、オーバーレイに対する Cisco vAnalytics ユーザーの認証に使用できます。

1. Cisco vAnalytics にログインします。

（注） オーバーレイのために Cisco vAnalytics に初めてログインする場合は、Cisco CCO ID でログインします。後続のログイン試行では、オーバーレイ用に定義する組織 IdP でユーザーが認証および承認されます。

2. [Dashboard] が表示されたら、[View all overlays] をクリックして [Smart Accounts] 画面に移動します。
3. 組織の IdP をスマートアカウント用、またはバーチャルアカウントに関連付けられたオーバーレイ用に設定します。
    1. 組織の IdP をスマートアカウント用に設定するには、[Define IDP] をクリックします。
    2. 組織の IdP をバーチャルアカウント用に設定するには、[Actions] の下にある [...] の上にマウスポインタを置き、[Define IDP] をクリックします。
4. [Define IDP] ダイアログボックスで、[OIDC IDP] または [SAML IDP] をクリックします。

1. SAML 2.0 IdP の場合は、次の手順を実行します。

表 *2 : SAML IdP* のプロパティ

IDP メタデータ	[browse file] をクリックして、SAML 2.0 メタデータファイルを Cisco vAnalytics にアップロードします。 Cisco vAnalytics が SAML 2.0 ファイルを読み取り、次の詳細が表示されます。 • **IdP の発行元 URL** • **IdP のシングルサインオン URL** • **IdP 署名証明書の有効期限（日数）**

[デフォルトのユーザ ロール（Default User Role）]	Cisco vAnalytics ユーザーのデフォルトロールを設定します。IdP のユーザーにロールが割り当てられていない場合は、デフォルトのロールが使用されます。 （注） IdP の定義時にデフォルトロールを指定することに加えて、組織の IdP でユーザーの `authzCiscovAnalytics` 属性を定義することにより、ユーザーアクセスおよび操作権限を管理できます。 ユーザーには、次のロールを割り当てることができます。 • `basic` ロールを使用すると、ユーザーは、Microsoft 365 Cloud OnRamp 画面を除く、オーバーレイのすべての Cisco vAnalytics 画面にアクセスできます。 • `o365` ロールを使用すると、ユーザーは、Microsoft 365 Cloud OnRamp 画面にアクセスできます。 `basic` ロールと `o365` ロールの両方をユーザーに割り当てて、オーバーレイのすべての Cisco vAnalytics 画面にアクセスできるようにできます。 • `admin` ロールを使用すると、ユーザーはオーバーレイのすべての Cisco vAnalytics 画面にアクセスでき、オーバーレイの IdP も定義できます。
Domain Identifier	すべてのユーザー ID に含まれるドメイン識別子を指定します。たとえば、組織の IdP で定義されているユーザー ID の形式が `userID@example.com` の場合、共通のドメイン識別子は `example.com` です。

2. OIDC IdP の場合は、次の手順を実行します。

表 *3 : OIDC IdP* のプロパティ

IDP メタデータ	組織の IdP に次の OIDC プロパティを入力します。 • クライアントID • クライアントのシークレット • 発行元（Issuer） • 認証エンドポイント • トークンエンドポイント • JWKS エンドポイント • Userinfo エンドポイント

[デフォルトのユーザ ロール（Default User Role）]	Cisco vAnalytics ユーザーのデフォルトロールを設定します。IdP のユーザーにロールが割り当てられていない場合は、デフォルトのロールが使用されます。 （注） IdP の定義時にデフォルトロールを指定することに加えて、組織の IdP でユーザーの `authzCiscovAnalytics` 属性を定義することにより、ユーザーアクセスおよび操作権限を管理できます。 ユーザーには、次のロールを割り当てることができます。 • `basic` ロールを使用すると、ユーザーは、Microsoft 365 Cloud OnRamp 画面を除く、オーバーレイのすべての Cisco vAnalytics 画面にアクセスできます。 • `o365` ロールを使用すると、ユーザーは、Microsoft 365 Cloud OnRamp 画面にアクセスできます。 `basic` ロールと `o365` ロールの両方をユーザーに割り当てて、オーバーレイのすべての Cisco vAnalytics 画面にアクセスできるようにできます。 • `admin` ロールを使用すると、ユーザーはオーバーレイのすべての Cisco vAnalytics 画面にアクセスでき、オーバーレイの IdP も定義できます。

Domain Identifier	すべてのユーザー ID に含まれるドメイン識別子を指定します。たとえば、組織の IdP で定義されているユーザー ID の形式が `userID@example.com` の場合、共通のドメイン識別子は `example.com` です。

3. **[Save]** をクリックします。

5. IdP の定義を完了するには、空でない値を指定して必要なクレームを送信します。
   1. SAML 2.0 IdP の場合、IdP メタデータファイルをダウンロードし、ファイルにリストされている 4 つのクレームを送信します。
   2. OIDC IdP の場合、firstName、lastName、および email を送信します。

IdP の設定後に Cisco vAnalytics にログインするユーザーは、認証のために IdP のページにリダイレクトされます。

定義された組織 IdP の管理

スマートアカウントの管理者は、オーバーレイのすべてまたは一部に対して Cisco vAnalytics ユーザーを認証するために定義された組織 IdP を表示、変更、または削除できます。バーチャルアカウントまたはオーバーレイの管理者は、オーバーレイに対して Cisco vAnalytics ユーザーを認証するために定義された組織 IdP を表示、変更、または削除できます。

1. Cisco vAnalytics にログインします。
2. [Dashboard] が表示されたら、[View all overlays] をクリックして [Smart Accounts] 画面に移動します。
3. 定義された IdP を管理するには、[Actions] の下にある [...] の上にマウスポインタを置きます。
   - IdP プロパティを表示するには、[View IDP] をクリックします。
   - IdP プロパティを変更するには、[Edit IDP] をクリックします。

     定義済みの IdP のデフォルトのユーザーロールとドメイン識別子のみ編集できます。他のプロパティを変更する必要がある場合は、IdP 定義を削除して、IdP を再度定義する必要があります。
   - 定義済みの IdP を削除するには、[Delete IDP] をクリックします。

     IdP を削除すると、Cisco vAnalytics ユーザーは、組織の IdP で定義および認証された ID を使用してログインできなくなります。IdP が削除されたときにアクティブだったユーザーセッションは終了しませんが、その後のログインの試行は失敗します。

画面要素

各カテゴリには複数のページがあり、グラフ、表、集計カウント、およびその他のパフォーマンス測定値が含まれています。

グラフには棒グラフまたは折れ線グラフが使用されます。棒または線をクリックすると、詳細が表示されます。たとえば、アプリケーションのパフォーマンス測定を表すバーをクリックすると、そのアプリケーションに関する詳細を表示できます。

一部のページには、いくつかの事前選択されたエントリを含むテーブルとグラフの両方が含まれています。テーブルで最大5つのエントリのチェックを外すか、チェックして、各エントリのグラフを表示できます。

テーブルは、[High] から [Low]、または [Low] から [High] など、さまざまな列フィールドでもソートできます。さらに、多くのデータポイントにはハイパーリンクが含まれており、リンクをクリックして追加のコンテキスト情報を表示できます。

ページとタブには、次の構成可能な側面があります。

[Time Window]：分析を表示する時間枠を選択します。デフォルトの期間は過去 12 時間です。期間を過去 24 時間、7 日、1 か月、またはカスタム範囲に変更できます。カスタムの日付範囲を選択する際、一度に選択できるのは最大 1 週間です。

[Filter Options]：フィルタオプションを使用して、分析のビューをより詳細なレベルに絞り込みます。たとえば、アプリケーションレベルの分析を表示しているときに、フィルタを適用して、特定のサイトにおける特定のアプリケーションの分析を表示できます。

[Sort Order]：ソートオプションを使用して、選択したカウントまたはパフォーマンス測定の値に基づいて、エントリを [High] から [Low]、または [Low] から [High] の順序でソートします。

または、テーブルの列名にマウスポインタを合わせ、名前の横に表示される上矢印または下矢印をクリックして、列の値の昇順または降順でテーブルエントリをソートできます。

[Rows]：デフォルトでは、テーブルには最大 25 行が表示されます。10、50、または 100 行を表示する場合、ページネーションオプションを使用して、テーブルの表示エントリを増やすことができます。

ページの右上隅にある適切なボタンをクリックして、ページを全画面表示にしたり、ページのスナップショットをダウンロードしたりできます。

Cisco vAnalytics は、Google Chrome と Mozilla Firefox をサポートしています。

概要ダッシュボード

[Overview Dashboard] は、Cisco vAnalytics にログインしたときに最初に表示されるページです。[Overview Dashboard] ページには、サイト、アプリケーション、および回線のヘッダーデータがオーバーレイレベルで表示されます。[Overview Dashboard] のウィジェットには、サイト、アプリケーション、回線、およびユーザーのパフォーマンスに関するトップレベルビューが表示されます。

[Overview Dashboard] ページには、分析のために選択したオーバーレイサイトおよびアプリケーションのネットワーク全体の概要が表示されます。選択したオーバーレイについて、ユーザーがアクセスできるすべてのサイトが表示されます。

表 *4*：概要ダッシュボード

ページ要素	説明
View All Overlays	クリックして [Smart Accounts] 画面に移動します。
All Sites	ドロップダウンリストをクリックしてサイトを選択するか、サイトを検索します。
サイト（Sites）	選択した時間範囲で高可用性を持つサイトの割合、および同じ期間の前の時間範囲と比較した変化の割合が表示されます。
アプリケーション	選択した時間範囲で良好な QoE を持つアプリケーションの割合、および同じ期間の前の時間範囲と比較した変化の割合が表示されます。
回線（Circuits）	選択した時間範囲で高可用性を持つ回線の割合、および同じ期間の前の時間範囲と比較した変化の割合が表示されます。

サイト（Sites）

[Sites] サマリーウィジェットには、サイトの合計数と、可用性のパーセンテージ（サイトの稼働時間）に基づいたサイトの分布が含まれています。このウィジェットには、可用性と、同じ期間の前の期間と比較した可用性の観点におけるパーセンテージ変化でソートされた下位5つのサイトも表示されます。

アプリケーション

[Applications] サマリーウィジェットには、アプリケーションの合計数と、QoEスコア（良好、普通、不良）に基づいたアプリケーションの分布が含まれています。このウィジェットには、QoE スコアの低い順にソートされた下位 5 つのアプリケーションと、その 5 つのアプリケーションの QoE 値の変化が表示されます。また、QoE スコアの観点におけるそれら 5 つのアプリケーションの正常性を示すサイト単位の分布が棒グラフで表示されます

サイトの詳細を表示するには、アプリケーションをクリックしてください。[Application 360] ページには、アプリケーションのサイトレベルビュー、アプリケーションを使用している上位のサイト、アプリケーションの QoE および使用情報が表示されます。

回線（Circuits）

[Circuits] サマリーウィジェットには、回線の合計数と、可用性のパーセンテージに基づいた回線の分布が含まれます。このウィジェットには、可用性と、同じ期間の前の期間と比較した可用性の観点におけるパーセンテージ変化でソートされた下位 5 つの回線も表示されます。

Users

[Users] ウィジェットには、オーバーレイ内のデータの上位ユーザー、データの現在の使用状況、過去の期間からのデータの使用状況の変化が表示されます。上位ユーザーは、オーバーレイネットワークの各ユーザーの送信元 IP アドレスを使用して追跡されます。このウィジェットには、ユーザーが使用した上位3つのアプリケーションも表示され、データは帯域幅によってランク付けされます。

[Overview Dashboard] ページでは、サイトでフィルタ処理すると、選択したサイトの概要を確認できます。このサイトで実行されているアプリケーションの数、サイト上のデバイスの数、サイトの総データ使用量、サイト内の回線数、サイトの上位ユーザーなど、サイトに関する有用な情報を取得できます。

[Devices] ウィジェットには、サイト上のデバイスのリストとその他の関連情報が表示されます。

[Overview Dashboard] ページで [Applications] をクリックして [Application Dashboard] ページに移動するか、[Sites] をクリックして [Site Dashboard] ページに移動します。

サイト ダッシュボード（Site Dashboard）

[Overview Dashboard] ページで、[Sites] をクリックして [Site Dashboard] に移動します。[Site Dashboard] には、すべてのサイトのマップビューが表示されます。あるいは、[Cisco vAnalytics] メニューをクリックし、[Sites] を選択することで [Site Dashboard] ページにアクセスできます。

[Site Dashboard] ページには、選択した期間におけるネットワーク全体のサイトの可用性と使用状況が表示されます。[Site Dashboard] ページは、サイトの観点からオーバーレイ上のアプリケーションのパフォーマンスを確認するのに役立ちます。また、サイトの観点からオーバーレイパフォーマンスを表示する機能を提供し、可用性、使用率、および遅延の観点からさまざまなサイトの実行方法に関するインサイトを提供し、前の期間の対応するメトリックと比較します。

特定のサイトにカーソルを合わせてサイト関連の情報を表示するか、テーブルビューを使用して、すべてのサイトのリストを要約情報とともに表示できます。サイトをクリックしてドリルダウンし、サイトの評価指標を表示します。

Application Dashboard

[Overview Dashboard] ページで [Applications] をクリックして、[Application Dashboard] に移動します。または、[Applications] ウィジェットで [View Details] または [Applications] をクリックすることで移動できます。

[Application Dashboard] ページには、すべてのサイトおよび単一サイトのオーバーレイ全体における、さまざまなアプリケーションの実行方法に関する情報が表示されます。

[Application Dashboard] には、オーバーレイ全体およびすべてのサイトにわたる全アプリケーションのアプリケーションパフォーマンス（QoE）の概要が表示され、全体的な帯域幅や帯域幅の増加などの他のメトリックと比較されます。

[Application Dashboard] は、次のウィジェットの評価指標を表します。

- アプリケーション エクスペリエンス
- Application Trend Analysis
- QoE Distribution by Application Classes
- Trending Applications

メトリックを表形式で表示することもできます。表形式を使用すると、任意のアプリケーションのメトリックを検索して表示できます。

アプリケーション エクスペリエンス

[Application Experience] ウィジェットには、使用率の詳細、カウント別の良好、普通、不良のアプリケーションの数、およびトラフィックの合計量が表示されます。アコーディオンチャートには、QoEスコアの観点からアプリケーションの正常性を示す色とともに、使用率の高いアプリケーションが表示されます。これは、最も重要なアプリケーションパフォーマンスの問題に注意を向けるのに役立ちます。

アプリケーションの詳細を表示するには、特定のアプリケーションの上にマウスポインタを置きます。

Application Trend Analysis

[Application Experience] ウィジェットで [Application Trend Analysis] をクリックして [Application Trend Analysis] ウィジェットを起動し、選択した期間のアプリケーションのトレンドをチャート形式で表示します。

[Application Trend Analysis] ウィジェットを使用すると、次の観点からアプリケーションのトレンドを可視化できます。

- 選択した時間間隔における QoE による良好/普通/不良アプリケーションの数のプロット。
- 選択した時間間隔における上位 5 つのアプリケーション（帯域幅別）の QoE 傾向線。
- アプリケーションのテーブルからカスタムリストを指定する機能。情報を表示するアプリケーションを選択または選択解除できます。

傾向線をクリックして、選択したアプリケーションの詳細を表示します。[High] から [Low] の順に、帯域幅の使用率が上位のアプリケーションを表示できます。グラフにマウスポインタを合わせると、特定の時点でのアプリケーションのパフォーマンス測定値が表示されます。

アコーディオンチャートの個々のアプリケーションブロックをクリックして [Application 360] ページに移動し、選択したアプリケーションに関する詳細情報を確認します。

Application 360

[Application Experience] ウィジェットでアプリケーションをクリックして、[Application 360] ページに移動します。または、[Trending Application] ウィジェット内のアプリケーション、下の表にリストされているページ要素内のアプリケーション、または [Overview Summary Dashboard] の [Application] ウィジェットで任意のアプリケーションをクリックして、[Application 360] ページを表示できます。

[Application 360] ページには、すべてのサイトにわたる単一のアプリケーション パフォーマンスのビューが表示されます。また、さらにドリルダウンして、単一サイトおよびトンネルでのアプリケーションに関する詳細を表示する機能があります。

[Application 360] ページから、選択した期間における特定のアプリケーションに関する QoE の変化を可視化できます。[Application 360] ページを使用して、次のことができます。

- 各サイトのアプリケーションのパフォーマンスを比較し、マップビュー上に良好/普通/不良サイトの集計数を表示する。
- 単一サイトについて、アプリケーションが経時的に使用したネットワークパスを表示する。
- さまざまなネットワークの重要業績評価指標（KPI）に対応するオーバーレイ全体のアプリケーションのメトリックを表示する。特定のサイトを選択して、サイトごとの損失、遅延、ジッター、ユーザー、および使用状況を表示できます。

表 5 : Application 360

ページ要素	説明
サイト（Sites）	特定のサイトにマウスポインタを合わせると、使用状況と QoE スコアに関する情報が表示されます。マップビューからテーブルビューに切り替えて、すべてのサイトのアプリケーションに関する追加情報を表示できます。
App Metrics	このタブには、アプリケーションのネットワーク使用状況（ネットワーク損失、遅延、ジッター、および単一サイトでアプリケーションを使用しているユーザーの数）に関する情報が表示されます。 さらに、アプリケーションによって使用されている回線と、単一サイトのさまざまな時点での回線に関する使用状況の詳細が表示されます。

ページ要素	説明
App Flow	特定のアプリケーションの詳細なトンネルレベル情報が表示されます。アプリケーションが使用した個々のトンネル、使用情報、およびその他の関連情報を確認できます。 Sankey チャート：Sankey チャートには、単一サイトのさまざまなトンネル間のアプリケーションフローに関する詳細情報が表示されます。詳細については、「**Sankey チャート**」の項を参照してください。 [View Path Trace]：このリンクをクリックして、アンダーレイパス情報と、次のシナリオの損失や遅延などのホップメトリックを表示します。 • オンデマンドで正確なパスをトレースして表示する。 • イベントによってトリガーされたときにトンネルパスをトレースする。 • トンネルパスの履歴データを表示する。 （注） Cisco vAnalytics でパスをトレースし、アンダーレイパス情報を表示するには、Cisco vManage で Underlay Measurement and Tracing Services（UMTS）機能を有効にして、Cisco vManage バージョン Cisco vManage リリース 20.10.1 以降を使用します。 UMTS 機能の詳細については、「Underlay Measurement and Tracing Services」を参照してください。
上位ユーザ	さまざまなサイトにおける使用状況、QoE、相関関係の KPI メトリック別の上位ユーザーが表示されます。
App Users	このタブには、単一サイトのアプリケーションのユーザーに関する情報が表示されます。

Sankey チャート

Sankeyチャートには、単一サイトのさまざまなトンネル全体のアプリケーションフローに関する詳細が表示され、リモートサイトで終了するさまざまなトンネル上のアプリケーションの正常性を理解するのに役立ちます。

グラフの左側には、ローカルサイトと色、およびQoEスコアに関する情報が表示されます。チャートの右側には、リモートサイトと色に関する情報が表示されます。

QoEスコアに基づいて、上位5つのQoEスコアを持つサイトが[Site]ドロップダウンリストに表示されます。他のすべてのサイト情報が集計され、チャートに表示されます。最大6つのサイトの情報を選択して表示できます。

Sankeyチャートには、DIAトンネルと非DIAトンネルの両方の情報が表示されます。DIAトンネルパスの場合、ローカルの色はインターフェイス名を表し、リモートサイトは**SaaS**として表示されます。リモートの色とサイト情報がないトンネルパスは、DIAトンネルパスを表します。

トンネルパスを表示するには、ノードをクリックします。

Microsoft 365

Cisco IOS XE リリース 17.6.1a Cisco vManage リリース 20.6.1 以降、Microsoft Informed Network Routing を有効にして、Microsoft 365 アプリケーションスイートのテレメトリデータの収集を有効にできます。Cisco vManage で Microsoft 365 のテレメトリデータの収集を有効にする方法については、「Enable Application Feedback Metrics for Office 365 Traffic」を参照してください。

Microsoft 365アプリケーションのテレメトリデータは、[Application 360]ページ]ページの[Path Analytics]タブに表示されます。

Path Analytics

Cisco vManage で機能が有効になっている場合、[Path Analytics] タブに Microsoft 365 ファミリのアプリケーションのパステレメトリデータが表示されます。「Enable Application Feedback Metrics for Office 365 Traffic」を参照してください。

[Path Analytics] タブには、Microsoft 365 ファミリのアプリケーションのパステレメトリデータが表示されます。対象には、経時的なベストパススコア、各パスについて計算された Cisco SD-WAN スコア、パスについてMicrosoftが受け取ったフィードバック、遅延データなどのデータが含まれます。

Microsoft 365アプリケーションのテレメトリデータを表示するには、次の手順を実行します。

1. [Overview Dashboard] ページで [Applications] をクリックして、[Application Dashboard] ページに移動します。
2. [Applications Dashboard] ページから、Microsoft アプリケーションを選択します。
3. サイトを選択します。

   選択したサイトと Microsoft アプリケーションの [Path Analytics] タブが表示されます。

Cisco vManage で機能が有効になっていて、テレメトリデータが Microsoft から入手できる場合、Microsoft 365 ファミリのアプリケーションに対してのみ [Path Analytics] タブが表示されます。

[Path Analytics] タブには、次のチャートが表示されます。

表 *6 : Path Analytics*

ページ要素	説明
Filter	フィルタを使用して、分析のビューを絞り込みます。
Data Comparison	同じサイト内、インターフェイス間、およびインターフェイスが属するサービスエリア内のさまざまなデバイスを比較するためのデータが表示されます。
Path chart	アプリケーションのためにデバイスによって選択されたベストパスが経時的に表示されます。
App Score	Microsoft からのフィードバックに基づいて Cisco vAnalytics によって計算されたスコアが表示されます。このフィードバックは、ベストパスを決定するためにエッジデバイスによって使用されます。
MSFT App Score (Received)	Microsoft から受け取ったスコアが表示されます。
[Usage]	エッジデバイスのトラフィック量が表示されます。
ネットワークテレメトリ	Cloud onRamp プローブによって検出された、Microsoft アプリケーションのネットワークの損失と遅延が表示されます。
Microsoft Telemetry	Microsoft によって報告されたトラフィックの遅延が表示されます。
Network Delay	ネットワークのサーバー側とクライアント側の遅延が表示されます。

Cloud onRamp for SaaS 設定とメトリックログの表示の詳細については、Cloud OnRamp コンフィギュレーション ガイド、Cisco IOS XE Release 17.x [英語] の次の項を参照してください。

- Enable Application Feedback Metrics for Office 365 Traffic
- Enable Microsoft to Provide Traffic Metrics for Office 365 Traffic

- View Office 365 Application Logs

Webex

Cisco vManage で Webex テレメトリを有効にしている場合、Webex アプリケーションの [Path Analytics] タブが表示されます。「Enable Webex Server-Side Metrics」を参照してください。

[Path Analytics] タブには、Webex アプリケーションのパステレメトリデータが表示されます。対象には、経時的なベストパススコアなどのデータ、エッジデバイスおよび Webex サーバーからの Webex トラフィックに関する詳細が含まれます。

Webex のテレメトリデータを表示するには、次の手順を実行します。

1. [Overview Dashboard] ページで [Applications] をクリックして、[Application Dashboard] ページに移動します。
2. [Applications Dashboard] ページから、Webex アプリケーションを選択します。
3. サイトを選択します。

   選択したサイトの [Path Analytics] タブが表示されます。

   Cisco vManage で機能が有効になっている場合、[Path Analytics] タブに Webex データが表示されます。

[Path Analytics] タブには、次のチャートが表示されます。

表 7 : Path Analytics

ページ要素	説明
Filter	フィルタを使用して、分析のビューを絞り込みます。
Data Comparison	同じサイト内、インターフェイス間、およびインターフェイスが属するサーバーリージョン内のさまざまなデバイスを比較するためのデータが表示されます。
Path chart	選択したリージョンについて、アプリケーションのためにデバイスによって選択されたベストパスが経時的に表示されます。
ネットワークテレメトリ	専用 Webex デバイスへのネットワークの損失と遅延が表示されます。
[Usage]	リージョンのインターフェイスごとの Webex トラフィックの量が表示されます。

ページ要素	説明
メディア タイプ	選択したメディアタイプに関する Webex サーバーからのデータが表示されます。メディアタイプをクリックして、損失、遅延、およびジッターを示すチャートを表示します。 [Resolution Height] チャートには、インターフェイスおよびリージョンごとのビデオの解像度品質が表示されます。 [Frame Rate] チャートには、フレームレートに関するデータが表示されます。 [Media Bit Rate] チャートには、選択したメディアタイプの 1 秒あたりのビット数に関するデータが表示されます。
Transport Type	選択した転送タイプに関する Webex サーバーからのデータが表示されます。転送タイプをクリックして、損失、遅延、およびジッターを示すチャートを表示します。

QoE Distribution by Application Classes

[QoE Distribution by Application Classes] ウィジェットには、さまざまなクラスに対するアプリケーションが表示されます。アプリケーションクラスは、動作とネットワークパフォーマンスの要件に基づいてアプリケーションをグループ化するために使用される広範なカテゴリです。このプロットは、オーバーレイネットワークで特定のクラスのアプリケーションのパフォーマンスを低下させる可能性のある、システムネットワークとオーバーレイの問題を特定するのに役立ちます。特定のトラフィッククラスに対する不良/普通/良好の比率に一貫性がない場合、オーバーレイにおけるアプリケーションのポリシー設定ミスの可能性を示していることがあります。

Trending Applications

[Trending Applications] ウィジェットを使用すると、測定された QoE スコア、使用率、損失、遅延の増減率が大きい上位のアプリケーションを比較できます。

アプリケーション

[Applications] ウィジェットには、オーバーレイのすべてのアプリケーションの表が表示されます。

予測ネットワーク

ThousandEyes WAN Insights を利用した Predictive Path Recommendations（PPR）は、予測ネットワークに関するシスコのビジョンと一致しています。PPR機能は、さまざまなネットワークパス全体のアプリケーション トラフィック フローに関する履歴データを分析し、統計データモデルを適用して将来のネットワークの問題を予測し、エンドユーザーのアプリケーション体験を向上させるための代替パスの使用に関する推奨事項を提案します。

（注） PPR 機能は、ThousandEyes WAN Insights が利用可能な地域で一般提供されています。Cisco vAnalytics の PPR 機能は、ThousandEyes の WAN Insights と呼ばれます。

Predictive Path Recommendations の有効化

Cisco vAnalytics で Predictive Path Recommendations 機能を有効にするには、オーバーレイを Cisco vAnalytics にオンボードする必要があります。

Cisco vAnalytics で PPR 機能をアクティブにするには、次の手順を実行します。

1. [Cisco vAnalytics] ダッシュボードで、[Predictive Networks] をクリックします。

   Cisco vManage リリース 20.9.2 以降の場合は、[Cisco vManage] メニューから [Analytics] > [Predictive Networks] を選択します。

2. [Activate] をクリックします。

   PPR 機能を使用するためのオーバーレイがアクティブになります。[Activate] ボタンは、Cisco vAnalytics の管理者権限を持つユーザーのみ使用できます。それ以外のユーザーの場合、このボタンは無効になります。

オーバーレイネットワークのサイズによっては、アクティブ化に最大 48 時間かかる場合があります。アクティブ化アクションが正常に実行されたことを示す確認メールが ThousandEyes から送信されます。データが完全にオンボードされ、PPR 機能を使用できるようになると、2 回目の確認メールが送信されます。オンボーディングが完了すると、Cisco vAnalytics から PPR 機能にアクセスできます。ThousandEyes からも同じ機能にアクセスできます。2 回目の電子メールには、ThousandEyes から ThousandEyes WAN Insights にアクセスする方法の説明が含まれています。

（注） Predictive Path Recommendations 機能の基本機能は、Cisco DNA Advantage+ ライセンス（TE-EMBED-WANI）に追加料金なしで組み込まれています。この組み込みライセンスを使用すると、Cisco SD-WAN ファブリックごとに最大 6 つのアプリケーションまたはアプリケーションリストを監視できます。

アクティブ化に失敗した場合、ページにエラーメッセージが表示されます。問題を解決するには、エラーメッセージの指示に従ってください。問題が解決しない場合は、シスコサポートで TAC ケースを開いて解決してください。

Cisco vAnalytics バーチャルアカウントに適切な数の Cisco DNA Advantage+ ライセンスと TE-EMBED-WANI ライセンスがあることを確認してください。不足している場合は、ライセンスを正しいバーチャルアカウントに配置します。

Predictive Path Recommendations の使用

オーバーレイのアクティブ化が正常に完了すると、Cisco vAnalytics によってデータが分析され、[Predictive Networks] タブに推奨事項が表示されます。

Predictive Path Recommendations 機能の使用を開始するための手順：

または、[Cisco vManage] メニューから [Analytics] をクリックし、[Predictive Networks] を選択します（Cisco vManage リリース 20.9.2 以降の場合）。

[Overview Dashboard] で、[Predictive Networks] をクリックします。.

[Recommendations Summary] ウィジェット

[Recommendations Summary] ウィジェットには、すべてのサイトでアクティブなアプリケーショングループに関する Path Recommendations に関するハイレベルビューと、推奨状態が [Ready] または [None] であるサイトの数に関する情報が表示されます。

[Recommendations Summary] ウィジェットには、以下に関する詳細が表示されます。

- アプリケーションが使用している現在のネットワークパスの評価された品質を参照する現在のパス品質
- 代替推奨パスの品質を参照する推奨パス品質
- 影響を受けたユーザーの数

デフォルトでは、[All Recommendations] が選択されており、すべてのアプリケーショングループに対応する推奨事項が [Recommended Actions] ウィジェットに表示されます。[Recommendations Summary] ウィジェットではアプリケーションを選択でき、[Recommended Actions] ウィジェットには選択したアプリケーションの推奨事項が表示されます。

[View Details] をクリックして、選択したアプリケーショングループのサイト全体の推奨事項をすべて表示します。

[Recommended Actions] ウィジェット

[Recommended Actions] ウィジェットには、すべてのサイトにわたるさまざまなアプリケーショングループに関する Path Recommendations の詳細ビューが表示されます。

[Recommended Actions] ウィジェットには、以下に関する完全な詳細が表示されます。

- 代替パスの提案を含む推奨アクション
- 現在のパスの品質と推定ゲインによる推奨パスの品質
- 影響を受けるユーザーの推定数。

検索ボックスを使用して情報をフィルタ処理します。[View by] ドロップダウンリストのオプションを使用して、アプリケーショングループ、ゲイン%、日付、またはサイト別にビューの情報をフィルタ処理します。

[Recommended Actions] ウィジェットには、次のようなビューも表示されます。

- カード形式で Path Recommendations が表示されるカードビュー（デフォルトのビュー）。
- すべてのサイトと概要情報が表形式で表示されるテーブルビュー。
- すべてのサイトと概要情報がマップ上に表示されるマップビュー。

[Recommendations Summary] ウィジェットでアプリケーショングループをクリックすると、選択したビュータイプに従って、選択したアプリケーションの対応する詳細が [Recommended Actions] ウィジェットにロードされます。

[Recommended Actions] ウィジェットで [View details] をクリックして、特定の推奨事項、サイトのアプリケーショングループ、および Path Recommendations に関する詳細を表示します。

[Show Path and QoS details] をクリックして、個々のデバイスペアの使用可能なネットワークパスの詳細、それぞれのパス品質、さらに損失、遅延、およびジッターを示すグラフを表示します。

Recommended Actions の適用

[Recommended Actions] ウィジェットで提案される推奨事項には、アプリケーションのユーザーに有益なパス品質のゲインの可能性に関するアセスメントが示されます。提案された推奨事項を使用して、Cisco vManage のアプリケーション対応ルーティングポリシーを事前に調整して、アプリケーション体験を向上できます。

レポート

レポート機能は、すべてのアプリケーションとすべてのサイトに関する定期的なレポートを生成するのに役立ちます。

（注） レポート機能を使用するには、Cisco プラグアンドプレイ（PNP）スマートアカウント管理者またはバーチャルアカウント管理者である必要があります。

1. [Cisco vAnalytics] メニューから、[Reports] を選択します。
2. [Reports] ページには、生成されたレポートのリストが表示されます。[Reports Templates] をクリックします。

   [Reports Templates] ページには、選択できるさまざまなレポートテンプレートが表示されます。PDF および CSV 形式を選択できます。
3. [PDF] または [CSV] を選択し、[Generate] をクリックします。
4. レポートの名前を入力し、[Next] をクリックします。
5. レポートの範囲を選択し、[Next] をクリックします。

   [All Applications] またはレポートを生成する特定のアプリケーションを選択します。
6. レポートのタイムスケジュールを選択し、[Next] をクリックします。
7. 受信者の電子メールアドレスを入力し、[Next] をクリックします。

   レポートの概要を示す確認ページが表示されます。最大 5 人の電子メール受信者を入力できます。レポートのパスキーは、このページと最後の [Summary] ページで入手できます。
8. [Submit] をクリックします。`

   レポートが生成されると、PDF ファイルとして受信者に電子メールで送信されます。

   選択したファイル形式に応じてレポートが生成され、PDF または CSV ファイルとして受信者に電子メールで送信されます。

（注）
- PDF および CSV ファイルはパスワードで保護されています。[Delivery and Notification] ページ、またはレポートの [Summary] ページで入手可能なパスキーを使用して、PDF または CSV レポートのロックを解除します。
- エグゼクティブ サマリー レポートは PDF 形式でのみ利用でき、CSV 形式では利用できません。

トラブルシューティング

vAnalytics ポータルにログインできない

問題

vAnalytics ポータルにログインできません。

Possible Causes

ユーザーのスマートアカウントの権限が不足している可能性があります。Cisco CCO ID を使用して vAnalytics ポータルにアクセスするには、スマートアカウント管理者またはスマートアカウントユーザー権限、仮想アカウント管理者、またはバーチャル アカウント ユーザー権限が必要です。

ソリューション

ユーザーが組織のスマートアカウントにアクセスできない場合は、スマートアカウント管理者に連絡して、スマートアカウントへのアクセスをユーザーに提供してください。アクセスが許可されると、ユーザーはログインできます。

vAnalytics にデータがない

問題

vAnalytics ポータルにデータが表示されません。

Possible Causes

エッジデバイスに DPI 構成がなく、アプリケーション関連のデータをキャプチャまたはエクスポートできない可能性があります。

ソリューション

Cisco IOS XE SD-WAN デバイス で DPI を有効にするには、「SD-WAN Application Intelligence Engine Flow」を参照してください。

Cisco vEdge デバイス で DPI を有効にするには、「app-visibility」、「flow-visibility」を参照してください。

一部のユーザーは、Cisco vManage で DPI 処理を無効にすることを選択しますが、Cisco vManage で DPI 処理を無効にしても、vAnalytics には影響しません。デバイスで DPI が有効になっている限り、統計情報は引き続きエクスポートされます。

vAnalytics にデータが表示されない：DPI が有効

問題

エッジデバイスで DPI が有効になっている場合でも、vAnalytics ポータルにデータが表示されません。

Possible Causes

エッジデバイスで DIA トラフィックのみ生成されていて、トンネルトラフィックは生成されていない可能性があります。

ソリューション

トンネルトラフィックが生成された場合、またはオーバーレイに対して有効になっている最小の CoR SaaS で DIA トラフィックが生成された場合、vAnalytics ポータルにはサイトデータのみ表示されます。

インターネットに直接送信されるトラフィック（DIA とも呼ばれる）は、vAnalytics ポータルに表示されません。

付録

ここでは、新しい Cisco vAnalytics をリクエストし、Cisco vManage でデータ収集を有効にする方法について説明します。

- Cisco vAnalytics 用オーバーレイの新しいオンボーディングのリクエスト （33 ページ）
- データ収集の有効化（Cisco vManage Release 20.3 以降） （35 ページ）
- データ収集の有効化（Cisco vManage Release 20.1 以前） （35 ページ）
- オンプレミスの Cisco vManage インスタンスでデータ収集を有効にするための追加手順（36 ページ）

Cisco vAnalytics 用オーバーレイの新しいオンボーディングのリクエスト

シスコ（https://mycase.cloudapps.cisco.com/case）でサポートケースを開き、以下の情報を入力します。

- 顧客名
- 組織名（Cisco vManage で設定されている名前）
- DNA ライセンスタイプ
- vAnalytics によるメタデータの収集の承認：（[Yes] | [No]）

[Yes] をクリックすると、Cisco vManage と Cisco vAnalytics の Cisco Data Collection Agent（DCA）と Cisco Data Collection Service（DCS）がセットアップされ、Cisco vManage によりテレメトリファイルが Cisco vAnalytics にプッシュされて処理され、そのオーバーレイまたはアカウントの UI が強化されます。[No] を選択すると、オーバーレイは Cisco vManage によって Cisco vAnalytics にオンボードされません。

- 承認日
- お客様の電子メールアドレス
- シスコの連絡先
- Cisco vManage の展開：（クラウドホスト型 | オンプレミス）
- Cisco vManage ソフトウェアバージョン
- Cisco vManage の地理的な場所（国）
- Cisco vManage のテナント（シングルテナント | マルチテナント）
- オーバーレイのターゲットエッジ数

シスコがこの情報を受け取ってから、Cisco vAnalytics を準備して、お客様の Cisco vManage のロケーションに近いクラウドリージョンの 1 つに展開するまで約 24 ～ 48 時間かかります。

Cisco vAnalytics は、Cisco SD-WAN オーバーレイネットワークのトラフィックフロー、イベント、アクティビティ、およびインベントリに関するメタデータを収集して、トラフィックフロー、ネットワーク状態、およびアプリケーション体験に関する分析を提供します。メタデータは、セキュア API を使用して Cisco vManage から Cisco vAnalytics に 30 分間隔でエクスポートされます。Cisco privacy data sheet には、Cisco SD-WAN Cloud のデータ処理方法が記載されています。

以下は、Cisco vManage から Cisco vAnalytics にエクスポートされるメタデータのグループの一部です。

- デバイス設定
- デバイスの統計情報
- Interface statistics
- アラームの統計情報
- 監査ログ
- Cisco SD-WAN アプリケーション インテリジェンス エンジン（SAIE）フローの統計情報

（注） Cisco vManage リリース 20.7.x 以前では、SAIE フローはディープパケット インスペクション（DPI）フローと呼ばれていました。

- AppRoute の統計情報

- SpeedTest の結果
- URL/AMP フィルタリングデータ

データ収集の有効化（Cisco vManage Release 20.3 以降）

（注） マルチテナント展開では、プロバイダー管理ユーザーはプロバイダービューでクラウドサービスを有効にする必要があります。

1. Cisco vManage のメニューから **[Administration]** > **[Settings]** の順に選択します。
2. [Cloud Services] を見つけて、[Edit] をクリックします。
3. [Cloud Services] フィールドで、[Enabled] をクリックします。
4. **OTP** と入力します。

   シスコは、Cisco vAnalytics の作成後に OTP を共有します。

   Cisco vManage と Cisco vAnalytics の両方を新しく作成する場合、シスコは Cloud Services を有効にし、Cisco vManage インスタンスの設定中に OTP を入力します。

   Cisco vAnalytics を使用していて、Cisco vManage をソフトウェアリリース 20.3 以降にアップグレードする場合は、Cisco TAC サポートでケースを開いて OTP を要求してください。
5. [vAnalytics] チェックボックスをオンにします。
6. [I agree...] チェックボックスをオンにします。
7. **[Save]** をクリックします。
8. Cisco vAnalytics へのアクセス （9 ページ） にリストされている URL のいずれかを使用して Cisco vAnalytics にアクセスします。

データ収集の有効化（Cisco vManage Release 20.1 以前）

1. Cisco vManage のメニューから **[Administration]** > **[Settings]** の順に選択します。
2. [vAnalytics] を見つけて [Edit] をクリックします。
3. [Enable vAnalytics] フィールドで、[Enabled] をクリックします。
4. [SSO Username] と [SSO Password] を入力します。

   ユーザー名とパスワードは、データの収集中には使用されません。ダミーのユーザー名と任意のパスワードを入力します。
5. [I agree...] チェックボックスをオンにします。
6. **[Save]** をクリックします。

7. Cisco vAnalytics へのアクセス （9 ページ） にリストされている URL のいずれかを使用して Cisco vAnalytics にアクセスします。

オンプレミスの Cisco vManage インスタンスでデータ収集を有効にするための追加手順

ポート 443 の Cisco vManage（インターフェイス VPN 0）から次の表に記載されている宛先へのアウトバウンド通信を許可するように、ローカルファイアウォールを設定します。Cisco vAnalytics インスタンスの地理的位置に基づいて、適切な一連の宛先を選択します。

地理的位置	宛先
南・北・中央アメリカ	https://us-west.dcs.viptela.net（Cisco vManage リリース 20.1 以前） https://us01.datagateway.analytics.sdwan.cisco.com（Cisco vManage リリース 20.3 以降） https://datamanagement-us-01.sdwan.cisco.com（Cisco vManage リリース 20.3 以降）
アメリカ（東部）	https://us-east.dcs.viptela.net（Cisco vManage リリース 20.1 以前） https://us02.datagateway.analytics.sdwan.cisco.com (Cisco vManage リリース 20.3 以降) https://datamanagement-us-01.sdwan.cisco.com (Cisco vManage リリース 20.3 以降)
欧州	https://europe.dcs.viptela.net（Cisco vManage リリース 20.1 以前） https://eu01.datagateway.analytics.sdwan.cisco.com (Cisco vManage リリース 20.3 以降) https://datamanagement-us-01.sdwan.cisco.com（Cisco vManage リリース 20.3 以降）https://datamanagement-us-01.sdwan.cisco.com/
オーストラリア	https://au01.datagateway.analytics.sdwan.cisco.com (Cisco vManage リリース 20.3 以降) https://datamanagement-us-01.sdwan.cisco.com (Cisco vManage リリース 20.3 以降)

Cisco vManage の CLI から cURL -k コマンドを使用して、これらの宛先への到達可能性を確認できます。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。